

ピアノ初学者のコード奏指導の実践 —コード予備練習課題 No. 1 の実践報告と予備練習課題 No. 2 の提案—

松井 典子*¹⁾, 前田 則子²⁾

1) 滋賀短期大学 幼児教育保育学科, 2) 奈良教育大学 音楽教育講座

Practical Teaching of Chord Playing for Piano Beginners

Noriko MATSUI¹⁾, Noriko MAEDA²⁾

1) Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College,

2) Department of Music Education, Nara University of Education

抄録：2018年に実施した保育者養成課程のピアノ授業において、初学者がコード技術を習得する際に誤った運指を用いて演奏が滞ってしまう傾向が指摘されたため、正しい運指定着のための予備練習課題を提示した。本稿では、その実践結果を報告する。ピアノ初学者の17名に本課題を実施し、5回に分けてアンケート調査を行った。その結果、予備練習課題を取り入れることにより、学生自身がコード奏における運指定着を実感したことが明らかになった。さらに、予備練習課題 No. 1 の応用として、コードの接続の観点から新たな予備練習課題 No. 2 を提示する。

キーワード：コード奏、運指、ピアノ初学者、予備練習、保育者養成課程

1. はじめに

前年度の研究¹⁾において、保育者養成課程の学生が弾き歌いを習得する上で、コード奏を主とする伴奏が有用であることがアンケート調査から明らかになった。また、ピアノ初学者がコード奏を習得する際、運指について特徴的な傾向がみられることが実践調査の結果、確認できた。特にハ長調の**C**から**F**のコード接続で滞ってしまう学生は、その原因として、運指が定着せず、誤った運指を用いていたことが判明した。それを解決するために、サブ教材として**C**から**F**のコード接続に特化した予備練習課題 No.1①～⑧（楽譜1）²⁾を考案した。

本稿では、2019年度の音楽Ⅲの授業で予備練習課題 No.1 を学生に実践した結果を報告する。学生の意識や反応、実感性について、アンケート調査結果から分析する。

その結果を踏まえ、次の段階として、ト長調、ヘ長調で主要三和音以外のコードを含んだ場合の接続について、学生がスムーズに弾けるための練習方法を考案する。連続するコード内の共通音に着目

*¹ E-mail: n-matsui@sumire.ac.jp

し、共通音の有無による指の動きや運指について分析した上で、練習課題を提案する。

2. コード予備練習課題の実践

2.1 2019年度音楽Ⅲの授業内容

本授業は、1コマ90分授業を2グループに分け、前半と後半で45分ずつ、クラス授業とピアノ個人レッスンを行なっている。クラス授業では、表1の課題曲を、コードによる伴奏付けで弾き歌いができることを授業の到達目標としている。したがって、左手の伴奏は楽譜に記載された音符を弾くのではなく、コードネームを見ながら伴奏付けをする。授業では、ハ長調、ト長調、ヘ長調の主要三和音のコードネームを紹介し、主要三和音以外のコードについても随時コードや構成音の解説を行ない導入している。

ピアノ個人レッスンでは、ピアノ曲（表1の他、ブルグミュラー等）およびコードによる弾き歌いを指導している。15回のピアノ個人レッスンでピアノ課題を全て合格した上で定期試験の受験資格が認められる。なお、弾き歌いのテキスト³⁾の童謡曲には全てコードネームが記載されているが、運指は記載されていない。

表1 弾き歌い課題一覧（五十音順）

<ul style="list-style-type: none"> ・オニはうちでひきうけた（ト長調） ・かめの遠足（ハ長調） ・きのこ（ヘ長調） ・世界中のこどもたちが（ト長調） ・ともだちになるために（ハ長調） ・にじ（ト長調） ・南の島のハメハメハ大王（ヘ長調） ・やぎさんゆうびん（ヘ長調）
--

表2 音楽Ⅲピアノ課題

コース	曲の種類	課題曲
初級	ピアノ曲	バイエル 96, 98, 100, 102, 104 StepⅢ・Ⅳ ⁴⁾ その他の中から1曲以上
	弾き歌い	表2の8曲の中から3曲以上

2019年度の音楽Ⅲのクラス授業前15回の内容を表3に示す。

表3 2019年度 音楽Ⅲクラス授業の内容

回	授業内容	課題曲
1	音楽Ⅱの振り返り (音程, 長三和音, 短三和音, 増三和音, 減三和音) 音楽Ⅲの課題発表	雨ふり おつかいありさん こおろぎ
2	主要三和音 (I IV V) 及びV ₇ , コード伴奏付け及び弾き歌い, コード運指の説明	しゃぼんだま, とんぼのめがね, ゆうやけこやけ
3	カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明 予備練習課題 No. 1 (第1回目)	上記6曲の振り返り
4	C Major①(C F G G ₇)の紹介 カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明, 和音の転回と接続 予備練習課題 No. 1 (第2回目)	かめの遠足
5	C Major②まとめ カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明 和音の転回と接続, 主要三和音以外のコードの紹介	ともだちになるために
6	G Major①(G C D D ₇)の紹介 カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明 和音の転回と接続	オニはうちでひきうけた
7	G Major② カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明 和音の転回と接続, 主要三和音以外のコードの紹介	にじ
8	G Major③まとめ カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明 和音の転回と接続, 主要三和音以外の紹介	世界中のこどもたちが
9	F Major①(F B _b C C ₇)の紹介 カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明 和音の転回と接続, 主要三和音以外の紹介	南の島のハメハメハ大王
10	F Major② カデンツによるコード奏の練習, コード運指の説明 和音の転回と接続, 主要三和音以外の紹介	やぎさんゆうびん

11	F Major③まとめ カデンツによるコード奏の練習，コード運指の説明 和音の転回と接続，主要三和音以外のコードの紹介	きのこ
12	振り返り，各調のカデンツによるコード奏の練習 予備練習課題 No. 1 (第 3 回目)	課題曲 8 曲
13	8 曲の振り返り 予備練習課題 No. 1 (第 4 回目)	課題曲 8 曲
14	8 曲のいずれかを選択 暗譜で歌唱 予備練習課題 No. 1 (第 5 回目)	課題曲 8 曲の歌唱
15	8 曲の振り返り，各調のカデンツによるコード奏の練習	課題曲 8 曲の振り返り

2.2 調査対象学生について

調査の対象学生は、2019年度の音楽Ⅲ（2回生・前期）のクラス授業を受講した本学幼児教育保育学科2回生17名（女子学生11名，男子学生6名）である。本学のピアノ実技は、初級・中級・上級のレベル別の課題に分け、個人のピアノ習熟度に合わせた指導をしている。各レベルの選択は、1回生の音楽Ⅰの初回授業時にピアノ個人レッスンの担当教員が学生と相談し、級を決定している。本調査対象者17名は、音楽Ⅰと音楽Ⅱで1年間のピアノ授業を履修し、音楽Ⅲにおいて全員が初級課題（表1及び表2）に取り組んでいる。なお、弾き歌いの課題曲は中級・上級においても表2の8曲であり、級が上がる毎に習得する曲数が増えていく。

また、本学では、入学者のピアノ歴を前もって把握する目的で、入学前までの音楽経験を問う調査（ピアノ等鍵盤楽器の経験や中学・高校時代の音楽活動歴、現在のピアノレベルについて）を全学生に実施している。本調査対象者17名のうち、10名の学生が鍵盤楽器の経験が無く、ピアノは全く弾けないと回答していた。この中の5名はピアノ歴は無いものの、中学・高校時代に吹奏楽や軽音楽、授業などで音楽経験がある。7名の鍵盤楽器経験者は、幼児期のみに習った者が1名、幼児期から中学校まで継続して習った者が1名、高校で幼児教育への進路を決定した際に始めた学生が5名、というように学生の音楽歴はさまざまであった。

2.3 予備練習課題 No. 1 の実施方法

予備練習課題は、表3のとおり全15回の授業のうち、前半の第3回，第4回，後半の第12回，第13回，第14回の合計5回実施した。第3回に予備練習課題 No.1の楽譜を提示し、以下の実施方法により導入した。第4回以降は、次項の【実施方法】3. から行なった。なお、予備練習課題を授業外の個人練習に追加することは特に課しておらず、授業の中で指導するのみとした。

予備練習課題 No.1 を次頁に示す。

楽譜 1 予備練習課題 No. 1⁹⁾

The musical score consists of eight numbered exercises on a single bass clef staff in 4/4 time. Each exercise is a four-measure phrase ending with a double bar line and repeat dots. Exercises 1, 2, and 3 are melodic lines with fingerings (1-5) indicated below the notes. Exercises 4 and 5 are chord progressions with fingerings (1-3) indicated below the notes. Exercises 6, 7, and 8 are melodic lines with fingerings (1-5) indicated below the notes.

【実施方法】

1. ハ長調の音階を示し、主要三和音（I, IV, V, V₇）について解説する。
2. コードネーム C 以外の転回形のコードやコード連結時の共通音について解説する。
3. 板書した主要三和音の下に運指を記載し、コード連結時の共通音を線で繋ぎ示す。
4. カデンツの練習（C→F→G→C, C→F→G₇→C）をクラス全員で行なう。
5. 初見で予備練習課題を全員で①から⑧まで弾く。
6. カデンツを再び演奏する。

2.4 調査方法

教員が口頭で以下の質問をする。質問に対し、以下の回答の選択肢から挙手により回答する。第12回、第13回、第14回では、予備練習課題の定着度を問うため、回答の選択肢に「変化なし」を加えた。

【質問】

予備練習課題を取り入れることによって、カデンツが弾きやすくなったか。

《回答の選択肢》第3回および第4回

- ・弾きやすい
- ・弾きにくい
- ・分からない

《回答の選択肢》第12回、第13回、第14回

- ・弾きやすい
- ・弾きにくい
- ・変化なし
- ・分からない

【調査実施日時】

- ① 2019年4月24日（水） 16時20分～17時05分
- ② 2019年5月1日（水） 16時20分～17時05分
- ③ 2019年7月10日（水） 16時20分～17時05分
- ④ 2019年7月13日（土） 14時40分～15時25分
- ⑤ 2019年7月17日（水） 16時20分～17時05分

【調査場所】

滋賀短期大学3号館322教室

【使用楽器】

YAMAHA ARIUS YDP-S52 電子ピアノ

3. 調査結果とその分析

3.1 調査結果

調査結果は、以下の表4～表8のとおりである。

表4 第3回 出席者16名

弾きやすい	3名
弾きにくい	0名
分からない	10名

*回答無し 3名

表5 第4回 出席者17名

弾きやすい	7名
弾きにくい	0名
分からない	10名

表6 第12回 出席者16名

弾きやすい	8名
弾きにくい	0名
変化なし	5名
分からない	3名

表7 第13回 出席者17名

弾きやすい	9名
弾きにくい	0名
変化なし	7名
分からない	1名

表8 第14回 出席者17名

弾きやすい	4名
弾きにくい	0名
変化なし	13名
分からない	0名

第3回の導入時は、初見で予備練習課題を導入したため、「分からない」と回答した学生が多数であった。第4回では、「弾きやすい」と回答した学生が第3回と比較し約2倍となった。しかしながら、「分からない」と回答した学生が全体の半数を上回っている。第12回からの振り返りの授業では、新たに加えた「変化なし」と回答した学生が回を重ねるごとに増えている。それに対して、「分からない」と回答した人数は減少し、第14回では、0名になった。「弾きやすい」と回答した学生も第14回では4名と減少している。5回の調査を通して、「弾きにくい」と回答した学生はいなかった。第13回には、「もう手が覚えている」と感想を述べた学生もいた。

3.2 調査結果の分析

予備練習課題を導入した第3回は、初見演奏であったため、大多数の学生が楽譜を読むことに集中し、コード奏との結びつきが実感しにくかったようである。第4回では、「弾きやすくなった」と回答した学生は増加している。第3回と比較し、スムーズに読譜ができ、予備練習課題に手指も慣れてきたことが伺える。一方で「分からない」と回答した人数が「弾きやすい」を上回っており、まだ予備練習課題がコード奏へと結びついていない学生がいることが分かる。

次に、第12回以降を分析する。第6回から第11回までは、ト長調、ハ長調の課題曲のコード奏であったのでハ長調のコードと予備練習課題は実施していない。したがって、第12回は、振り返りとしてハ長調のコードと予備練習課題を行なった。第4回までは、予備練習課題によって弾きやすくなったかの問いに対し、「分からない」もしくは無回答の学生が10名いたが、第12回の回答に「変化なし」を加えたことによって「分からない」と回答した学生は3名と大幅に減少している。ハ長調と異なる調性のコード奏を練習していた間に黒鍵を使うコードを使用しても、運指や指のポジション移動は同様であり、コード奏に慣れ、身に付いてきたのではないかと考える。

第12回以降の「変化なし」と回答した学生数の推移に注目すると、回数を重ねる毎に「変化なし」が増加している。これについては、予備練習課題によって運指が定着し、無意識のうちにスムーズな指の移動が定着したことが分かる。すでにコード奏が完全に身に付いたと判断した学生は、「弾きやすい」から「変化なし」に移行したと推察する。また、「分からない」と回答した学生が3名から1名に減少したことについては、予備練習課題を繰り返し練習するうちに、その意図を学生が理解したとも考えられる。

4. 弾き歌い楽曲における予備練習課題の開発

4.1 予備練習課題の観点

予備練習課題No.1は、5度音程内（ドレミファソ）の各鍵盤上に5指を配置し、指が独立して動いた後に重音を取り入れ、運指を定着させることを目的に開発した。①の練習を必ず最初に行なうことで、5指の基本の配置を確認し、弾かない指も鍵盤上に置くという動作を確認することができた。そ

の上で、②と③では、第1指と第2指間の拡がりを認識させた。また、重音課題である④、⑤は共通音が無いところに着目した課題であり、習得している最中に手指の拡がりや移動が習慣づけられた。⑥、⑦、⑧は、第5指が共通音であり、第3指、第2指だけを移動させることで意識的に指をスムーズに移動させる練習ができた。

以上のように予備練習課題 No.1 は、重音を取り入れた練習課題を提示したが、重音を弾くことに時間を要する学生も見られた。そこで今回は、コード接続時のコード内の共通音の有無をキーワードに、読譜や運指においてより単純化した予備練習課題を考案する。弾き歌い楽曲に使われるコードのうち、主要三和音以外で多く使われるコードも含めて、接続時の指への意識を促す。同様に、ト長調、ヘ長調の楽曲において接続時の機能的な運指を考慮する。これらの観点による予備練習課題を次に提示する。

4.2 弾き歌い楽曲における予備練習課題の開発

課題曲 8 曲のうち、〈ともだちになるために〉（ハ長調）、〈世界中のこどもたちが〉（ト長調）、〈南の島のハメハメハ大王〉（ヘ長調）の3曲を取り上げる。

〈ともだちになるために〉は、ハ長調ということもあり、初級者が選曲する割合が高い。また、〈南の島のハメハメハ大王〉も初級者に人気の高い曲である。ヘ長調の楽曲ではあるが、前奏 4 小節のコード進行が1つのパターンとなり繰り返されるため、手の動きが少なく弾きやすいと感じるようである。一方で〈世界中のこどもたちが〉は、ト長調であること、主要三和音以外のコードが多く使われていること、やや複雑なコード接続であることから、初級者に限らず敬遠されがちである。

最初に、それぞれの曲を提示し、予備練習課題を取り入れた部分を **|** で囲い示す。抽出した部分にコードネームと運指を示し、共通音を **■** で繋ぎ示す。次の予備練習課題では、コード接続時に共通音を保持する課題と共通音が無く手の移動が必要となる場合の課題を提示する。共通音がある場合は、その音を単音で先行して弾き、タイで保持したまま移動する重音を交互に弾く。共通音が無い場合は、2種類の予備練習課題を示す。一つはコードの外声が6度音程で移動する場合、外声のみを取り出し練習する方法である（〈ともだちになるために〉参照）。もう一つは、主音の二度上のマイナーコード（基本形）への接続時に弾かない指を意識付ける練習方法である（〈世界中のこどもたちが〉及び〈南の島のハメハメハ大王〉参照）。更に、〈世界中のこどもたちが〉では、コード奏の接続時に毎回異なった共通音を持つコードが連続する部分の課題を提示する（楽譜 12）。この部分の運指については、基本の5度音程の位置に固執せず、長い連続間において手のポジション移動が少ない運指を採用した。理由は、初学者は大人であり手が大きいため、指間を拡げたまま移動を少なくすることにより、より安定した演奏が得られることを考慮した事にある。提示した楽譜は、本授業で使用している「子どもの音楽表現・うたあそび」⁶⁾に掲載されているものである。実際に学生は、楽譜に記載された伴奏形ではなく、コードネームに従って弾く。コードの配置については、接続時にできる

だけ近い配置を選んで指導している。楽譜 3, 7, 8, 9, 14 は、学生が実際に弾いているコードの配置である。伴奏のリズムは、4/4 拍子と 2/4 拍子の曲では、全音符、又は二分音符で弾くよう指導している。

以下、曲ごとに取り上げた部分のコード進行、及び予備練習課題を示す。

楽譜 2 ともだちになるために⁷⁾

ともだちになるために 詞：新沢としひこ 曲：中川ひろたか

The score consists of four systems of piano accompaniment. The first system shows the initial chords F, C, Dm7, and G7. The second system continues with C, G, F, and C. The third system shows F, C, Dm7, G, F, and C. The fourth system shows F, C, Dm7, G, and C. Fingerings are indicated by numbers 1, 2, 3, 4, 5 below the notes. Red brackets in the first two systems highlight the chord changes and the specific fingerings used for the chords.

楽譜 3 コード進行、運指、共通音 F-C-Dm7-G7

The diagram shows the chord progression F-C-Dm7-G7 on a bass clef staff. The chords are represented by their constituent notes: F (F, C, F), C (C, E, G), Dm7 (D, F, A, C), and G7 (G, B, D, F). Fingerings are indicated below each chord: 1-2-5 for F, 1-3-5 for C, 1-4-5 for Dm7, and 1-2-5 for G7. Blue horizontal bars highlight the common tones between adjacent chords: C (F to C), F (C to F), A (E to A), and D (G to D).

【予備練習課題】

楽譜 4 共通音を保持した練習 F-C-Dm7

楽譜 5 外声の並行移動を確認する練習 Dm7-G7

楽譜 6 世界中の子どもたちが⁸⁾

世界中の子どもたちが

調：新沢としひこ
曲：中村ひろたか

Tempo di Marcia

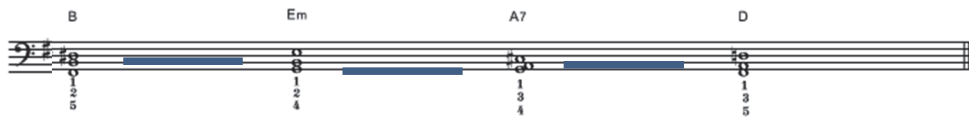
楽譜7 コード進行① 外声の並行移動 **G-Am**



楽譜8 コード進行② コード進行, 運指, 共通音 **C-D7-G**



楽譜9 コード進行③ 運指, 共通音 **B-Em-A7-D**



【予備練習課題】

楽譜10 コード進行① 弾かない指の意識付けの練習 **G-Am**



楽譜11 コード進行② 共通音を保持する練習 **C-D7-G**



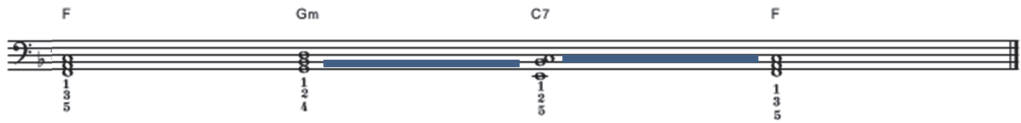
楽譜 12 コード進行③ 共通音を保持した練習及びポジション移動の少ない運指 **B-Em-A7-D**

楽譜 13 南の島のハメハメハ大王⁹⁾

南の島のハメハメハ大王

詞：伊藤アキラ
曲：森田公一

楽譜 14 コード進行, 運指, 共通音 F-Gm-C7-F



【予備練習課題】

楽譜 15 弾かない指の意識付け及び共通音を保持する練習 F-Gm-C7-F



5. まとめ

本稿では、2019年度の音楽Ⅲの授業において予備練習課題 No.1 を用いた実践結果を報告した。アンケート調査の分析から、運指が定着することによって指のスムーズな移動を習得できたことが実証された。予備練習課題 No.1 は、基本的配置をまず確認した上で、コード接続時の異なる運指にポイントを当てた課題となっている。振り返りの授業で再度練習したことは、学生たちの運指への意識付けに大いに反映できたと考えられる。また、予備練習課題 No.1 をト長調やへ長調に移調し、それぞれの調の導入時に取り入れる事も効果的であろう。

さらに本稿では、予備練習課題 No.1 を踏まえ、実際の課題曲においてスムーズにコード接続を行なう事を目的とした予備練習課題を考案した。着眼点は共通音である。共通音がある場合とない場合を分類し、提示した。共通音がある場合は、共通音を保持することでコード接続時に移動する指を重点的に練習することができる。共通音が無い場合は、予備練習課題を2パターン作成し、提示した。子どもの歌はト長調やへ長調のものが多くあり、Ⅱ度の和音や転調部分が含まれる事で魅力的な楽曲となっている。コードの種類は増えるが、新しいコードに出会う際に機能的な運指や無駄の無いポジション移動を身に付ける事は学生にとって大変有意義なことである。予備練習課題でコード接続を部分

的・機能的に練習することによって、音楽の流れに沿う運指習得が可能となる。今回取り上げたく世界中の子どもたちが>は、難易度が高く、上級者でも選曲しにくい傾向がある。しかし、予備練習課題で編み出した練習法により多くの学生が演奏に挑戦し、レパートリーの1つになることを期待したい。さまざまな運指のパターンを養成課程において多く経験することは、将来、保育・教育現場での実践に大いに役立つと考える。

最後に、4. で示した予備練習課題を「予備練習課題 No.2」としてまとめる。これは、「予備練習課題 No.1」の次の段階として、主要三和音と主要三和音以外のコードで童謡に使われることの多いコードの接続をまとめた予備練習課題である。ハ長調、ト長調、ヘ長調で提示しており、実際の授業で部分的に運用することが可能である。

文献

- 1) 松井典子, 前田則子 (2019), ピアノ初学者のコード奏における運指の傾向—コード予備練習 (サブ教材) の提言—, 滋賀短期大学研究紀要, 滋賀短期大学研究紀要, 第 44 号, pp.59-72
- 2) 前掲, p.71
- 3) 柚木たまみ, 松井典子, 水嶋育 他 (2018), 音楽表現・うたあそび, 監修 柚木たまみ, 松井典子, 水嶋育, 三学出版有限会社
- 4) 伊藤嘉子 他, (2012), 幼稚園教諭・保育士をめざす人のためのテキストピアノアプローチ 4 Steps, 音楽之友社
- 5) 文献 2) と同様
- 6) 文献 3) と同様
- 7) 前掲, pp.74-75
- 8) 前掲, pp.53-54
- 9) 前掲, pp.92-93

【予備練習課題 No. 2】

《ハ長調》

① 共通音がある場合 < C-G-C-F-G7-C の接続 >

Musical notation for the chord progression C-G-C-F-G7-C. The notation is written on a single bass clef staff in 4/4 time. The chords and their fingerings are as follows:

- C:** 1 (thumb)
- G:** 3 (middle), 5 (ring)
- C:** 1 (thumb), 3 (middle), 5 (ring)
- F:** 1 (thumb), 3 (middle), 5 (ring)
- G7:** 1 (thumb), 2 (index), 3 (middle), 5 (ring)
- C:** 1 (thumb), 3 (middle), 5 (ring)

< Dm-G7 の接続 >

Musical notation for the chord progression Dm-G7. The notation is written on a single bass clef staff in 4/4 time. The chords and their fingerings are as follows:

- Dm:** 2 (index), 4 (ring)
- G7:** 1 (thumb), 3 (middle), 5 (ring)

② 共通音がない場合 < C-Dm の接続 (基本形 I ~ II) >

Musical notation for the chord progression C-Dm. The notation is written on a single bass clef staff in 4/4 time. The chords and their fingerings are as follows:

- C:** 1 (thumb), 3 (middle), 5 (ring)
- Dm:** 2 (index), 4 (ring)

< F-G, F-Em の接続 (外声 6 度の並行移動) >

Musical notation for the chord progression F-G and F-Em. The notation is written on a single bass clef staff in 4/4 time. The chords and their fingerings are as follows:

- F:** 1 (thumb), 5 (ring)
- G:** 1 (thumb), 2 (index), 3 (middle), 5 (ring)
- F:** 1 (thumb), 5 (ring)
- Em:** 1 (thumb), 3 (middle), 5 (ring)

《ト長調》

① 共通音がある場合 <G-D-G-C-D7-G の接続>

Musical notation for the sequence G-D-G-C-D7-G in G major, bass clef, 4/4 time. The sequence consists of four measures: G (1 3 5), D (2 4 5), G (1 3 5), C (1 2 3), D7 (2 4 5), G (1 3 5). Fingerings are indicated by numbers 1-5 below the notes.

<Am-D7>

Musical notation for the sequence Am-D7 in G major, bass clef, 4/4 time. The sequence consists of two measures: Am (2 4) and D7 (1 3 5). Fingerings are indicated by numbers 1-5 below the notes.

② 共通音がない場合 <G-Am の接続 (基本形 I ~ II)>

Musical notation for the sequence G-Am in G major, bass clef, 4/4 time. The sequence consists of two measures: G (1 3 5) and Am (2 4). Fingerings are indicated by numbers 1-5 below the notes.

<C-D, C-Bm の接続 (外声 6 度の並行移動)>

Musical notation for the connections C-D and C-Bm in G major, bass clef, 4/4 time. The first sequence shows C (1 3 5) moving to D (1 3 5). The second sequence shows C (1 3 5) moving to Bm (1 3 5). Fingerings are indicated by numbers 1-5 below the notes.

《へ長調》

① 共通音がある場合 <F-C-F-B^b-C7-Fの接続>

Musical notation for the chord progression F-C-F-B^b-C7-F in bass clef, 4/4 time. The progression is shown across four staves. Fingerings are indicated by numbers 1-5 below the notes. Arched lines connect notes across staves to show voice leading. Chord symbols F, C, B^b, C7, and F are placed above the corresponding chords.

<Gm-C7の接続>

Musical notation for the chord progression Gm-C7 in bass clef, 4/4 time. The progression is shown across one staff. Fingerings are indicated by numbers 2, 4, 5, 2, 5 below the notes. Arched lines connect notes across staves to show voice leading. Chord symbols Gm and C7 are placed above the corresponding chords.

② 共通音がない場合 <G-Gmの接続（基本形Ⅰ～Ⅱ）>

Musical notation for the chord progression G-Gm in bass clef, 4/4 time. The progression is shown across one staff. Fingerings are indicated by numbers 3, 5, 2, 4, 1, 3, 5, 2, 4 below the notes. Chord symbols G and Gm are placed above the corresponding chords.

<B^b-C, B^b-Amの接続（外声6度の並行移動）>

Musical notation for the chord progression B^b-C and B^b-Am in bass clef, 4/4 time. The progression is shown across two staves. Fingerings are indicated by numbers 1, 5, 1, 5, 1, 5, 1, 5 below the notes. Chord symbols B^b, C, B^b, and Am are placed above the corresponding chords.